

**緊急情報** 水稻育苗期の細菌病の防除対策  
(水稻育苗期の細菌病の発生増加が懸念されています)

防除対策が必要です

種子消毒

(薬剤を替えましょう)

適切な育苗管理

(高温で発生しやすいので、  
ハウス育苗では要注意  
育苗はきれいな水で！)

健苗が

命

良質米づくりの第一歩は



手抜きをすると、こんなことに！

# 細菌病の防除対策

- ・平成16年の台風等による種籾の病原細菌の保菌により、平成17年は育苗期および本田で細菌病の発生増加の兆候がみられました。
- ・細菌病のまん延を防ぐためには、まず、種子消毒による防除が大切です。
- ・これまで広く使用されてきた、ヘルシードTフロアブルの効果は低く、ヘルシード乳剤およびスポルタック乳剤では、細菌病には効果がありません。

## 1 下記の①または②の方法で防除しましょう

### ① 薬剤による種子消毒（薬剤の変更のみ）

薬剤： テクリードCフロアブル、または モミガードC水和剤

（従来の薬剤と同様に、ほか苗病なども同時防除できます）

方法： 200倍液、24時間種子浸漬（乾籾）

（これまでと同様に、イネシンガレセンチュウを同時防除するため、

スミチオン乳剤を1000倍となるように混用しましょう）

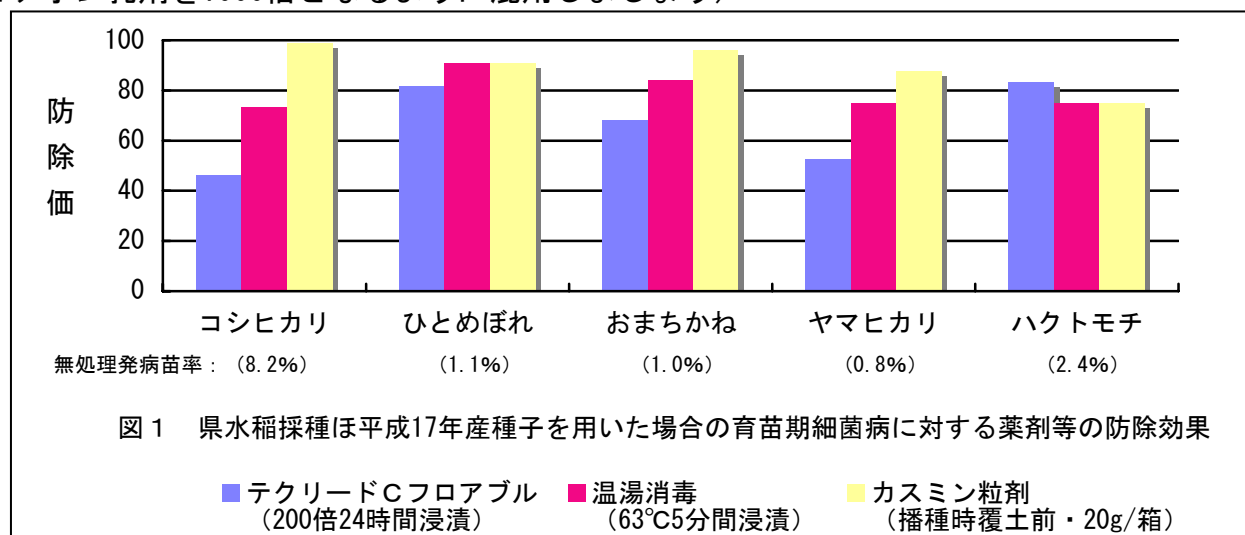


図1 県水稻採種ほ平成17年産種子を用いた場合の育苗期細菌病に対する薬剤等の防除効果

#### 注意事項

- ・薬液を作る場合、テクリードCフロアブル、モミガードC水和剤とも、少量の水で溶かしてから加えると溶かしやすくなります。
- ・薬剤浸漬処理後の種籾は、そのまま陰干してから浸種しましょう。
- ・浸種の最初の3日間は水の交換を控えましょう。
- ・カスミン剤の播種時処理は種子消毒以上の安定した効果が得られます。

### ② 温湯種子消毒（細菌病に対して種子消毒剤と同等の効果があります）

温湯63°C・5分間浸漬、または 60°C・10分間浸漬

（ほか苗病、イネシンガレセンチュウ等も効果があります）

#### 注意事項

- ・温湯消毒を行うには、ある程度の知識と技術が必要です。
- ・方法を間違えると、効果が低くなったり出芽不良などの障害が発生します。
- ・初めて実施される場合は、各農協、各県普及所等にご相談下さい。

## 2 種子消毒以外にも、適切な育苗管理により細菌病の発生を防止しましょう

- ・適切な出芽処理温度（30°C程度）（30°Cを超えると発生しやすい）
- ・適切な育苗温度（高温で発生しやすい、とくにハウス育苗では注意）
- ・育苗には水道水等のきれいな水を使用（河川、ため池等には病原細菌が生息）